

第 136 回エイズ動向委員会

委員長コメント

《平成 25 年第 4 四半期》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成 25 年 9 月 30 日～平成 25 年 12 月 29 日までの約 3 か月
2. 新規 HIV 感染者報告数は 295 件（前回報告 261 件、前年同時期 257 件）
そのうち男性 282 件、女性 13 件で、男性は前回（251 件）及び前年同時期（246 件）より増加、女性は前回（10 件）及び前年同時期（11 件）より増加
3. 新規 AIDS 患者報告数は 108 件（前回報告 108 件、前年同時期 114 件）
そのうち男性 101 件、女性 7 件で、男性は前回（102 件）及び前年同時期（107 件）より減少、女性は前回（6 件）より増加、前年同時期（7 件）と同数
4. HIV 感染者と AIDS 患者を合わせた新規報告数は 403 件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規 HIV 感染者：
 - 同性間性的接触によるものが 205 件（全 HIV 感染者報告数の約 69%）
 - 異性間性的接触によるものが 51 件（全 HIV 感染者報告数の約 17%）
そのうち男性 42 件、女性 9 件
 - 静注薬物によるものは 2 件（うち、その他に計上されているものが 1 件）
 - 年齢別では、20～30 代が多い。
2. 新規 AIDS 患者：
 - 同性間性的接触によるものが 59 件（全 AIDS 患者報告数の約 55%）
 - 異性間性的接触によるものが 25 件（全 AIDS 患者報告数の約 23%）
そのうち男性 21 件、女性 4 件
 - 静注薬物によるものは 3 件
 - 年齢別では、30～40 代が多い。

【検査・相談件数の概況（平成 25 年 10 月～12 月）】

1. 保健所における HIV 抗体検査件数（確定値）は 34,161 件（前回報告 24,533 件、前年同時期 26,597 件）、自治体が実施する保健所以外の検査件数（確定値）は 8,916 件（前回報告 7,310 件、前年同時期 7,223 件）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は 43,820 件（前回報告 34,340 件、前年同時期 37,321 件）

【献血の概況（平成 25 年 1 月～12 月）】

1. 献血件数（速報値）は、5,205,819 件（前年同時期速報値 5,271,103 件）
2. そのうち HIV 抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は 63 件（前年同時期速報値 68 件）
10 万件当たりの陽性件数（速報値）は、1.210 件（前年同時期速報値 1.290 件）

《まとめ》

1. 前回に比し、新規 HIV 感染者報告数は増加し、新規 AIDS 患者報告数は横ばいであった。
2. 前回及び前年同時期に比し、保健所等における HIV 抗体検査件数、相談件数ともに大幅に増加した。
検査・相談件数増加要因としては、12 月 1 日の世界エイズデーにあわせた各自治体のイベント検査による増加、輸血による HIV 感染報道の影響が考えられる。
3. 早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、今後も保健所等の無料・匿名 HIV 抗体検査および相談を積極的に利用していただきたい。

《平成25年 年間報告（速報値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成24年12月31日～平成25年12月29日までの約1年（四半期ごと速報値の合計）
2. 新規HIV感染者報告数は1,077件で過去3位
3. 新規AIDS患者報告数は469件で過去2位
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,546件で過去2位
※これまでの最高は、平成20年（確定値）でHIV感染者は、1,126件、AIDS患者431件、合計1,557件。

【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが760件（全HIV感染者報告数の約71%）
 - 異性間性的接触によるものが189件（全HIV感染者報告数の約18%）
 - 静注薬物によるものは7件（うち、その他に計上されているものが6件）
 - 母子感染によるものは1件
 - 年齢別では、特に20～30代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが268件（全AIDS患者報告数の約57%）
 - 異性間性的接触によるものが110件（全AIDS患者報告数の約23%）
 - 静注薬物によるものは7件（うち、その他に計上されているものが4件）
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に30歳以上が多い。なお、40歳以上が約63%を占めている。

【検査・相談件数の概況（平成25年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は136,400件で過去4位（過去最高は平成20年177,156件）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は145,401件で過去10位（過去最高は平成20年230,091件）

《まとめ》

1. 平成25年は速報値ではあるが、ここ数年間、新規HIV感染者と新規AIDS患者を合わせて約1,500件の報告があり、横ばい傾向のまま高止まりしている。
2. 年齢別の新規HIV感染者報告数は、特に20～30代で多く、感染経路として同性間性的接触の割合が最も高い。
3. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告数の合計は、ここ7年間で1万件以上報告されており、累積では、22,971件の報告がある。
4. 検査を受け、早期に治療を始めることでAIDSの発症を防ぐことが出来る。新規AIDS患者報告例の年齢ピークが30代から40代へと上昇傾向を示し、40歳以上が約63%を占めている。また、新規HIV感染者・新規AIDS患者報告数に占める新規AIDS患者報告数の割合は依然として30%を超えたまま推移している。以上から、検査は未だ十分行き届いていないと考えられる。
5. 平成22年以降、保健所等におけるHIV抗体検査件数はゆるやかではあるが増加傾向を示しているものの、相談件数は減少傾向を示しており、社会のHIVへの関心の低下が懸念される。
6. 速報値ではあるが、献血における10万件当たりの陽性件数は減少傾向であった。
7. 国民の皆様には、積極的にHIV検査を受けていただきたい。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。